

Series

私の漢方診療日誌

No.120 春の女神の憂い 女子学生の過酷な日常に漢方薬の癒しを』

小児科は、生まれたての新生児から、中学生までの幅広い年齢層のお子さんに関わりをもちますが、特に思春期は、体の発育に伴い内分泌系、自律神経系、さらには精神的にもダイナミックに変化する難しいお年頃です。また、春から梅雨時にかけては、入学試験、新入学に伴う生活パターンの変化とストレスで、それまで目立たなかった不定愁訴がいつせいに現れます。この時期に発症し、圧倒的に女性に多いこれらの症候を私は「春の女神症候群」と名づけ、インフォームド・コンセントに役立てています。

今回は、春の女神症候群の実例を示すとともに、「春の女神症候群」の診断名を用いること自体が、症状緩和に役立つことをお話します。

症例1 不定愁訴による不登校：20歳 専門学校生。

主訴 腹痛、頭痛、立ちくらみ、めまい。

病歴 不定愁訴のため専門学校へほとんど行けない。何かに追いかける夢、高いところから落ちる夢を良く見る。

現症 腹直筋板状硬、臍上悸著明、肝脈弦。起立試験で負荷後の血圧はむしろ上昇。

治療経過 当帰四逆加呉茱萸生姜湯 (TJ-38) 2包 2×、抑肝散加陳皮半夏 (TJ-83) 1包 1×就寝前の投与により、2週後冷えがとれ、表情も明るくなった。

症例2 責任感によるストレス症例：16歳 女子高校生。

主訴 部活後の過呼吸。

病歴 一ヶ月前から、それまで地区大会無敗の女子バスケット部キャプテンに指名された。それ以降、部活後に呼吸が苦しく、練習に身が入らない。

現症 臍上悸著明、手掌発汗。

治療と経過 桂枝加竜骨牡蛎湯 (TJ-26) 2包 2×、甘麦大棗湯 (TJ-72) 1包 1×就寝前、投与後2週間で、過呼吸があったのは学校行事の登山前後の2

回のみ。部活は、地区大会を勝ち抜き、ブロック大会へ進んだ。



紙面の関係で、ごく一部しか紹介できないのですが、共通して言えることは、突然起こった不定愁訴の患者さんのほとんどが女性である点と、発症時期が 3 月から梅雨時までの春に集中していることです。ある年の 5 月に不定愁訴に対し継続治療を要した 36 名の患者のうち、男女比では、女性が 7 割と圧倒的多数を占めています。初診時期を図 1 に示します。男性患者では一定の傾向はありませんが、女性患者は 3~5 月の春に明らかに多いのが確認できます。春先に雪解けの地上に花を咲かせ、夏になるといつの間にか姿を消す春の女神たちの伝説があります。初診時の季節が春に集中することが、彼女たちを“春の女神”とよぶに至った最大の理由です。次に、処方の種類ですが、柴胡剤を基本とし、冷えと水毒に対する処方が大多数を占めています。このことから、春の女神症候群の病態には、気のうっ滞や肝気の亢進が元となり、水滞や冷えが関与している可能性が示唆されます。

また、春の女神症候群という診断名を使う効用ですが、自分の病状に悩み、心ない医療関係者から「検査に異常がない」「気のせいだ」と言われ、ときに「たるんでいる」「更年期障害だろう」などの的外れなそしりを受けている少女たちの耳に“春の女神症候群”という病名は大変心地よく響くようです。そして、た

とえ漢方薬のように飲みにくい薬であっても、病気を治すために飲み続けようというモチベーションをもつことができるのでしょう。最後に、新入学以来体調不良が続いていた女子高校生の言葉を紹介します。「何か重い病気があるのではないかと不安だった。“春の女神症候群”と言われ、ああ、そうだったんだと納得したら、体が楽になった。」

もしかしたら、春から梅雨時の皆様方の外来に、不定愁訴を抱えた女の子が訪れるかもしれません。彼女が、侵襲的検査を繰り返しても異常所見を見つけられず、ドクターショッピングに疲れていたなら、ぜひ、“春の女神”とよんであげてください。

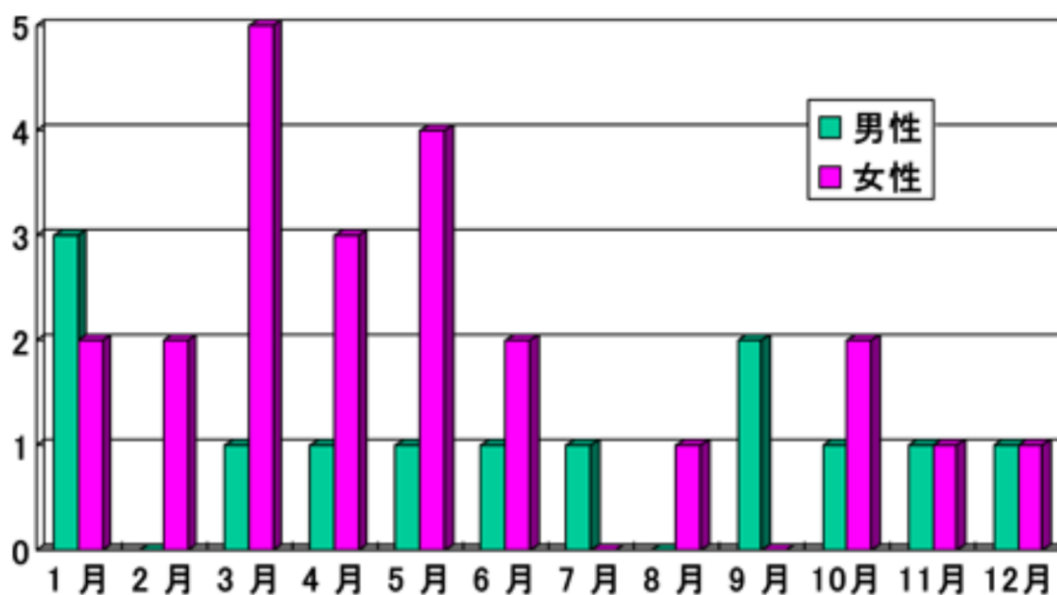


図1 不定愁訴患者の月別初診人数